CASBEE®-建築(新築)　評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2016年版　使用評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2016(v4.02)

1-1 建物概要

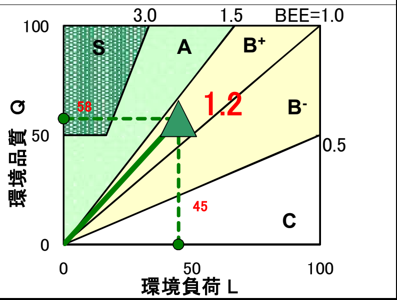
建物名称	聖隷クリストファーグローバルスクー	階数	地下1F、地上3F
建設地	静岡県浜松市中央区根洗町字西74	構造	RC造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	410　人
地域区分	6地域	年間使用時間	XXX 時間/年(想定値)
建物用途	学校,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年3月　予定	評価の実施日	2024年9月1日
敷地面積	22,222 ㎡	作成者	萩野亮
建築面積	1,597 ㎡	確認日	
延床面積	3,924 ㎡	確認者	

1-2 外観

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE =1.2 ★★★☆☆

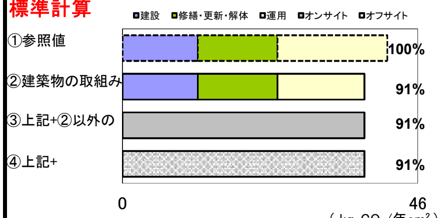
S: ★★★★★　A: ★★★★　B+: ★★★　B-: ★★　C: ★



2-2 ライフサイクルCO_2(温暖化影響チャート)

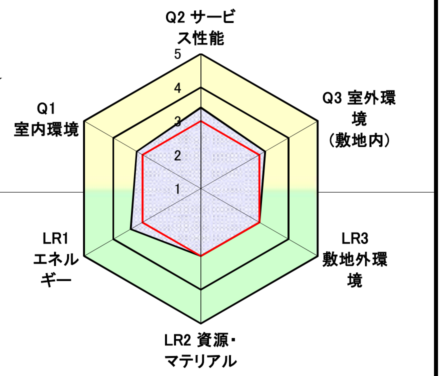
☆☆☆☆☆

30%: ☆☆☆☆☆　60%: ☆☆☆☆　80%: ☆☆☆　100%: ☆☆　100%超: ☆



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです

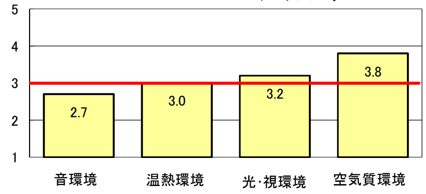
2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



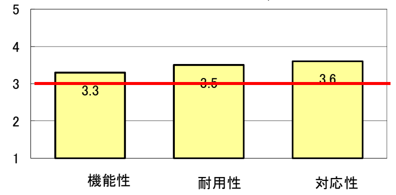
2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質　　Q のスコア=　3.3

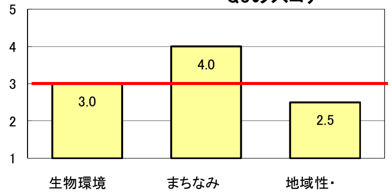
Q1 室内環境　Q1のスコア= 3.2



Q2 サービス性能　Q2のスコア= 3.4

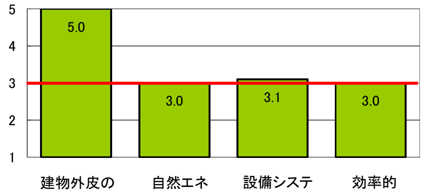


Q3 室外環境（敷地内）　Q3のスコア= 3.2

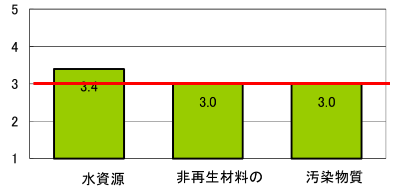


LR 環境負荷低減性　　LR のスコア=　3.2

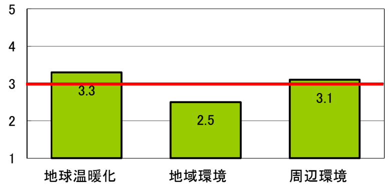
LR1 エネルギー　LR1のスコア= 3.4



LR2 資源・マテリアル　LR2のスコア= 3.0



LR3 敷地外環境　LR3のスコア=3.0



3 設計上の配慮事項

総合

これはCASBEE静岡（2016年版）による評価結果です。

将来来起こりうる模様替えを想定し、間仕切りを極力パーティション建具とし、撤去ならびに設置する間仕切り上部が躯体と取り合うように計画し、天井材を改修することなく間仕切りを変更できる計画とした。

その他

特になし

Q1 室内環境

ほぼ全面にF☆☆☆☆または規制対象外製品を採用し、化学汚染物質による空気質汚染を回避しています。

Q2 サービス性能

教室の間仕切りはパーティションまたはLGS下地壁とし空間レイアウト変更の自由度を考慮しました。
また天井内の設備配管、配線を触らずに間仕切りを変更できる計画としています。

Q3 室外環境（敷地内）

外観は既存建物の意匠を踏襲し統一感のあるデザインとしました。特に低層部にはセッキ質タイルを用い焼き物の質感を。敷地の外周には可能な限り緑地帯を設け、周囲の環境に配慮しています。

LR1 エネルギー

BPIm=0.60を達成

LR2 資源・マテリアル

エコマークを取得している仕上げ材を採用しています。
また有害物質を含む建築材料はほとんど使用していません。

LR3 敷地外環境

利用者の駐輪場を確保すると共にスクールバスを増設します。
利用者用駐車場に加え、来客用、サービス用駐車場を設けています。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency（建築環境総合性能評価システム）
■Q: Quality（建築物の環境品質）、L: Load（建築物の環境負荷）、LR: Load Reduction（建築物の環境負荷低減性）、BEE: Built Environment Efficiency（建築物の環境効率）
■「ライフサイクルCO_2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE建築（新築）2016年版 ver4.0対応

欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要

建物名称	聖隷クリストファーグローバルスクール校舎建築工事	BEE	1.2	BEEランク	B+	★★★

2. 重点項目への取組み度

重点項目	得点※/満点		評価
”ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進（Global Warming）	3.2	/5	ふつう
”災害に強いしずおか”の形成（Disaster）	3.3	/5	ふつう
”しずおかユニバーサルデザイン”の推進（Universal Design）	3.3	/5	ふつう
”緑化及び自然景観”の保全・回復（Nature）	2.7	/5	がんばろう

※対応するCASBEEのスコア（平均）を5点満点で表示します。（スコア1.0＝1点、スコア5.0＝5点）

評価　凡例：よい　4点以上／ふつう　3点以上／がんばろう　3点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要

各項目について配慮した内容を、該当する番号（①～）を示し記述してください。

内訳対応項目

“ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進（Global Warming）　得点 3.2

配慮内容						
■室内環境対策　（①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数） ④全面に耐用年数20年以上の仕上げ材を採用。 ④給水はVLP、汚水雑排水管はVP採用。	Q-1	2	2.1	2.1.2	①	外皮性能
	Q-1	3	3.1	3.1.3	②	昼光利用設備
			3.2	3.2.1	③	昼光制御
	Q-2	2	2.2	2.2.1	④	躯体材料の耐用年数
				2.2.2	④	外壁仕上げ材の補修必要間隔
				2.2.3	④	主要内装仕上げ材の更新必要間隔
				2.2.4	④	空調換気ダクトの更新必要間隔
				2.2.5	④	空調・給排水配管の更新必要間隔
				2.2.6	④	主要設備機器の更新必要間隔
■室外環境（敷地内）対策　（⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上）	Q-3	1			⑤	生物環境の保全と創出
		3	3.2		⑥	敷地内温熱環境の向上
■エネルギー対策　（⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用） ⑨全熱交換器の採用	LR-1	1			⑦	建物外皮の熱負荷抑制
		2			⑧	自然エネルギー利用
		3			⑨	設備システムの高効率化
		4	4.1		⑩	モニタリング
			4.2		⑩	運用管理体制
■資源・マテリアル対策　（⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避）	LR-2	1	1.1		⑪	節水
			1.2	1.2.1	⑪	雨水利用システム導入の有無
				1.2.2	⑪	雑排水等利用システム導入の有無
		2	2.1		⑫	材料使用量の削減
			2.2		⑫	既存建築躯体等の継続使用
			2.3		⑫	躯体材料におけるリサイクル材の使用
			2.4		⑫	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用
			2.5		⑫	持続可能な森林から産出された木材
			2.6		⑫	部材の再利用可能性向上への取組み
		3	3.1		⑬	有害物質を含まない材料の使用
			3.2	3.2.1	⑬	消火剤
				3.2.2	⑬	断熱材
				3.2.3	⑬	冷媒
■敷地外環境対策　（⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善）	LR-3	1			⑭	地球温暖化への配慮
		2	2.2		⑮	温熱環境悪化の改善

“災害に強いしずおか”の形成（Disaster）　得点 3.3

配慮内容						
■サービス性能対策　（⑯耐震・免震/⑰信頼性） ⑯25%増の耐震性。	Q-2	2	2.1	2.1.1	⑯	耐震性
				2.1.2	⑯	免震・制振性能
			2.4	2.4.1	⑰	空調・換気設備
				2.4.2	⑰	給排水・衛生設備
				2.4.3	⑰	電気設備
				2.4.4	⑰	機械・配管支持方法
				2.4.5	⑰	通信・情報設備

“しずおかユニバーサルデザイン”の推進（Universal Design）　得点 3.3

配慮内容						
■サービス性能対策　（⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり） ⑳階高=3850mm ⑳壁長さ比率=0.28	Q-2	1	1.1	1.1.3	⑱⑲	ユニバーサルデザイン計画
		3	3.1	3.1.1	⑳	階高のゆとり
				3.1.2	⑳	空間の形状・自由さ
■室外環境（敷地内）対策　（㉑地域性・アメニティへの配慮）	Q-3	3	3.1		㉑	地域性への配慮、快適性の向上

“緑化及び自然景観”の保全・回復（Nature）　得点 2.7

配慮内容						
■室外環境（敷地内）対策　（⑤生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上） ㉒既存建物と統一感のある外観　周囲に緑地帯を設け開放的な空間を構成。	Q-3	1			⑤	生物環境の保全と創出
		2			㉒	まちなみ景観への配慮
		3	3.2		⑥	敷地内温熱環境の向上
■敷地外環境対策　（⑫持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善）	LR-2	2	2.5		⑫	持続可能な森林から産出された木材
	LR-3	2	2.2		⑮	温熱環境悪化の改善